

アクションプラン等（具体的なプロジェクト）

世界の人びとを呼び込む観光協創プロジェクト プロジェクトの目標		2011 (現状)	年次計画			
			2012	2013	2014	2015
観光レクリエーション入込客数		3,565万人	3,650万人	3,800万人	4,000万人	4,000万人
実践取組1	延べ宿泊者数	756万人	770万人	780万人	800万人	800万人
	リピート意向率	77.8%	82.0%	88.0%	94.0%	100.0%
実践取組2	県内外国人延べ宿泊者数	90,990人	100千人	120千人	135千人	150千人
	海外の自治体等との連携事業数(累計)	—	2	4	7	10
実践取組3	受講生が取り組んだ地域活動数(累計)	—	10	20	30	40

みえ産業振興戦略

戦略 2	サービス戦略 ～観光の産業化等～
<p>【みえ産業振興戦略でめざす姿】</p> <p>③サービス産業(広義)の付加価値構成を向上 ⑤サービス産業(広義)の就業者構成を向上 ⑥共感者(魅力と感じる人)の割合を向上</p>	

平成24年度の間評価(実績及び課題)	平成25年度の方角性
<p>実践取組1：「さまざまな主体との連携による観光PR・誘客」に挑戦します！</p> <p>・「三重県観光キャンペーン」を平成25年4月から実施するため、官民一体となった三重県観光キャンペーン推進協議会を10月に立ち上げ、11月3日に伊勢市においてキックオフ大会を開催しました。今後、県全体でキャンペーンを盛り上げる機運を醸成していく必要があります。</p> <p>・キャンペーンの名称は、公募により、「三重県観光キャンペーン 実はその、ぜんぶ三重なんです」に決定しました。</p> <p>・観光産業を振興していくためには、来訪者に伊勢志摩だけでなく、県内を周遊し、出来るだけ長く滞在していただく必要があります。また、食やスポーツ、健康増進の取組などと連携し、高付加価値化した観光を展開していく必要があります。</p> <p>・島根県とは「ご遷宮」、奈良県とは「古事記」など共通テーマを活用し、他県と連携した観光PRを始めました。具体的に連携を進め、成果を出していくことが必要です。</p> <p>・県民の皆さんに地元の魅力を発信してもらうため、7月から「おすすめスポット」の公募を実施しました。</p> <p>・12月からの「おもてなしセミナー」を4回計画しました。観光旅行者の満足度を高め、リピーター確保につなげるためには、まず地域の皆さんが地域の魅力を「棚卸と再発見」する必要があります。</p>	<p>・式年遷宮を契機に、県全体で三重県を売り込みます。</p> <p>・キャンペーンでは、テーマやターゲットを絞った情報発信や、県内各地域と連携してそこにしかない歴史や文化、伝統など「ものがたり性」のある観光PRを行うことで、コアな三重ファンをつくるとともに、周遊性・滞在性の向上を図ります。</p> <p>・キャンペーンでは、おもてなしの一環として、来訪者に地域の旬の観光情報を提供するため、県内各地の観光案内所の案内機能を、市町観光協会等と連携し充実します。</p> <p>・地域資源の磨き上げ、新商品の開発など観光産業の高付加価値化を推進していきます。</p> <p>・情報発信にあたっては、三重県営業本部、首都圏営業拠点、東京事務所、大阪事務所と連携し情報発信を行います。</p> <p>・島根県、奈良県以外の他県とも連携し、広域連携による観光PRを実施します。</p> <p>・おもてなしについては、観光をサービス産業として明確に位置づけるとともに、観光客が求めるサービスを把握し、サービスの品質改善につなげます。また、パーソナルバリアフリーなど一人ひとりの満足度向上に着目し、三重県独自のおもてなしを追求します。</p>
<p>三重県観光キャンペーン事業(20,000千円)</p> <p>・11月3日に、観光キャンペーンキックオフイベントを伊勢市地域の地元イベントとタイアップして開催しました。</p> <p>・「三重県観光キャンペーン」PR隊を組織し、キャンペーンの周知と県内の気運醸成を図るために、市町と連携した広域的なPR活動を実施します。</p> <p>・県外に向けては、本県の認知度を向上させるため、三重県営業本部と連携しメディア等への情報発信を実施します。</p> <p>・また、他県と連携した取組について、島根県との雑誌の共同企画や観光PR、奈良県が東京都で開催する「古事記完成1300年記念シンポジウム」への知事の参加など連携を図っています。</p>	<p>・市町、観光協会等と連携しながら、イベント、情報発信等に取り組めます。</p> <p>・首都圏においては、三重県首都圏営業拠点(平成25年夏開設予定)を活用するなど、本県の認知度を向上させるための情報発信に取り組めます。</p> <p>・共通テーマに取り組む他県との連携を図ってまいります。</p> <p>・来県者の周遊性・滞在性の向上のため、周遊パスポートの作成やモデルルートの提案などに取り組めます。</p>
<p>三重のおもてなしの心再発見事業(9,983千円)</p> <p>・式年遷宮を契機に、三重県に来ていただいた方々の満足度向上を図るため、現地でのより詳細な観光情報の提供が必要です。</p> <p>・地域の課題の共有や感謝の気持ちを持って来訪者を迎えるように、資質向上のための「おもてなし向上セミナー」を開催します。</p> <p>・外国人向け電話通訳サービス「ことなび」については、利用実績が低調なことから、海外の旅行会社等へのPRを行っていきます。</p>	<p>・「おもてなしの向上」は、平成25年から3年間実施する「三重県観光キャンペーン」の地域の受入対策として大きな柱であり、市町、観光事業者等が参画する三重県観光キャンペーン推進協議会地域部会において、地域が主体となった取組になるよう展開します。</p> <p>○観光協会、観光案内所等と連携したキャンペーン情報発信等案内情報の充実</p> <p>○おもてなしセミナーの実施 等</p> <p>・「ことなび」については、成果を検証し、外国人観光客のニーズを踏まえた対応を検討します。</p>

平成24年度の中間評価(実績及び課題)	平成25年度の方向性
<p>実践取組2：「海外での認知度アップによる来訪者の増加」に挑戦します！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月にワシントン桜祭りに参加し、忍者を活用し三重県観光をPRしました。7月には麗水世界博覧会、日韓海女フォーラムに参加し、海女に係る情報発信を支援しました。限られた経営資源のもと、国内外の地域間競争に対応していくため、思い切った「選択と集中」により、ターゲットの明確化や重点地域の設定など、戦略的に国際施策を推進していく必要があります。 ・7月に実施した台湾ミッションでは、経済、観光、物産の分野が一体となって三重県のPRを行いました。また、平成25年「日台観光サミット」の開催地を本県に誘致しました。サミットの開催地決定を好機ととらえ、開催までの1年間を台湾との交流・連携の「重点強化期間」として位置づけるとともに、庁内横断的な推進体制を構築し、関係事業者や団体と連携しながら、台湾からの誘客をピーク時(H20)の2万5千人に戻すことを目標に取り組んでいく必要があります。 ・これまで大使館や領事館と友好交流で得た人脈等資源を経済交流等でも幅広く活用していく必要があります。 ・中部広域観光推進協議会や、「昇龍道」プロジェクト等広域連携による取組に参画し、連携したプロモーションを行っています。海外からの誘客を促進していくためには、広域での取組を有効に活用していく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際戦略の展開に当たっては、「選択と集中」により、対象国・地域(三重県のカウンターパート)を選定し、計画的、戦略的に実施します。 ・観光面のみのPRから地域を総合的に売り込む視点へ転換し、経済団体や企業、JETROなどと連携し、三重県をPRするとともに、ビジネスチャンスにつなげます。 ・式年遷宮に向けて、台湾からの観光客を倍増するため、「日台観光サミット」を開催します。そのベースづくりとして、開催までの期間を「重点強化期間」と位置づけ、台湾政府や観光協会等とのネットワークの構築をはじめ、集中的にPRや関係構築を進めます。 ・海外展開しようとする企業を支援するため、サポートデスク(上海、バンコク)を活用します。また、対象を重点化し、トップセールスを継続的、集中的に実施します。 ・中国・河南省やブラジル・サンパウロ州など友好交流先や大使館・領事館等との友好交流で得た人脈などの資源を、経済交流等で幅広く活用します。 ・中部広域観光推進協議会や「昇龍道」プロジェクトなど他県と連携し、中部地域全体をPRする取組を積極的に推進します。また、観光資源の補完関係にある他県とも連携し、広域的な視点から観光客の誘致を図ります。
<p>三重を楽しむ旅の予感創出事業(11,239千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月に台湾に対し知事によるミッションを行い、現地旅行会社と商談会、交流会を行うとともに、旅行会社を訪問し三重県のPRやモデルコースを提案しました。 ・昇龍道ミッションでは、中部の他自治体と連携し、三重県のPRやモデルコースを提案しました ・本県の国際戦略を策定中であり、これに基づいて誘客戦略を実施していきます。 ・旅行会社へのセールスコールにより、三重県の観光資源やモデルコースをPRしていきます。 ・10月の台北国際旅行博(ITF2012)へ出展し、忍者を活用したPRを行い、三重県の知名度向上を図りました。 ・台湾について、観光関係者等とネットワークを構築するとともに、テレビの旅行番組の活用などにより、三重県の知名度向上を図り誘客につなげていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三重県の観光資源の特性や対象国・地域の人々のニーズを的確に把握し、ターゲットを明確にした誘客を行います。 ・現地のテレビ局や出版社などのメディアを活用し、情報発信に取り組むことにより、三重県の知名度向上を図ります。 ・現地の旅行会社との関係を良好に保ち、継続的に三重県の売り込みができる関係を構築していきます。 ・三重県での日台観光サミット開催を契機に、台湾での三重県の知名度を向上させ三重県への誘客を促進させる取組を行います。
<p>海外自治体等と連携した誘客戦略事業(9,849千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年の日台観光サミットの開催に向けて県内市町、商工会議所、観光事業者などの関係者の協力を得ながら進めます。 ・観光協定に基づき、河南省の観光プロモーションを津で開催しました(来場者推計2,690人)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日台観光サミットの三重県での開催や視察旅行の実施により、台湾の旅行関係者のトップやサミット参加者に三重県の魅力をPRします。 ・河南省との観光協定に基づき、河南省との情報交換の推進、観光宣伝における協力関係の強化などに取り組めます。 ・ブラジル40周年事業の実施友好提携40周年を迎えるブラジル・サンパウロ州へのミッション団の派遣など記念事業を実施し、ブラジルとの関係強化を図ります。
<p>国際ネットワーク強化推進事業(3,057千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国、韓国、台湾などの大使館、領事館等を訪問し、情報・意見交換を行い、三重県のPRをしました。 ・駐日大韓民国特命全権大使が来県し、知事と意見交換を行うとともに、県内の観光施設等を案内し、三重の魅力を紹介しました。 ・副知事の訪韓に際して駐名古屋韓国領事館の職員同行などの支援を得ました。 ・11月7日から9日まで、外務省と本県との共催事業により、地方に対する認識を深めていただくとともに、諸外国との交流促進を目的として、駐日外国大使グループが三重県を訪問されました。この機会をとらえ、三重県の魅力を産業面も含め総合的にアピールしました。 ・ネットワークを強化する必要がある国・地域の大使館および領事館と積極的に情報・意見交換を行うとともに、三重県の情報を発信していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選択と集中により、今後、連携等を強化する国・地域の重点化を図り、ネットワークの強化を進めます。 ・産業や観光、文化などの様々な分野での事業の実施にあたり、大使館・領事館の協力を得ながら進めていきます。 ・大使館・領事館主催の事業に積極的に参加し、密接で良好な関係を維持していきます。

平成24年度の間評価(実績及び課題)	平成25年度の方向性
<p>実践取組3：「来訪を促進する観光の基盤づくり」に挑戦します！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「三重の観光モデル事業」では、海女については6月に「海女振興協議会」が立ち上がり、8月には「海女まるごと体験」事業の実施、9月に韓国済州島で開催された「海女祝祭」への参加、11月には海女文化シンポジウムの開催を計画しています。忍者については、地域のさまざまな主体と協議を重ね、8月末に協議会が設置され、忍者コンテンツの公募等に取り組んでいます。 ・地域が一体となった積極的な情報発信が国内外にできるよう、地元自治体、観光事業者や関係団体などが主体となった仕組みづくりが必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三重県観光の基盤づくりとして、人材育成と、観光モデル事業を実施します。 ・三重県観光連盟が実施した人材育成研修の修了者も含めて、観光を牽引するキーパーソンのネットワーク化を図ります。 ・研修で企画した新商品の実現化については、三重県産業支援センターのファンドや金融経営課の融資などの活用につなげていきます。 ・海女と忍者を活用したモデル事業は、国内外に対する積極的な情報発信を促進するとともに、地域が一体となって推進できるよう支援します。
<p>世界に誇れる三重県観光モデル構築事業(5,000千円)</p> <p>①海女</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月に鳥羽市、志摩市が中心となり、三重県関係各課、漁業関係団体、観光関係団体等が参画して、海女漁業の振興、海女文化の振興及び海女文化による観光振興を図ることを目的とする「海女振興協議会」を設立しました。 ・協議会事業として、関係団体、部署と連携しながら海女まるごと体験、海女文化シンポジウムの開催、海女紹介ガイドブックの作成、海女の企画展開催、海女ブランドづくり事業などを実施していきます。 <p>②忍者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域が一体的に取り組むことで、相乗効果が期待できることから、伊賀市、名張市、三重大学や観光関連団体による協議会を8月に立ち上げました。 ・協議会事業として、関係団体部署と連携しながら忍者コンテンツの公募、ホームページや統一ロゴの作成などに取り組んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度の事業実施結果を踏まえながら、新たな事業も組み込んだ発展的な事業展開を行っていくことで、三重県観光モデルの構築に向けて、地域と連携しながら引き続き取り組んでいきます。
<p>「きらりと輝く三重」の観光人材育成事業(2,293千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三重県観光連盟による人材育成支援事業(9月～12月)を支援するとともに、そのフォローアップとして「三重can-co-本気塾」(1月以降)を実施します。育成した人材が地域において、その魅力の棚卸と再発見に取り組めるよう支援することが課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の受講者が次年度以降の研修に関わっていくなど、単年度だけでなく、4年間を通じて受講者のネットワークを構築します。